

デーヴォ ガイド



2024.4.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship



8:41 同様に、あなたの民イスラエルの者でない異国人についても、その人があなたの御名のゆえに、遠方の地から来て、
 8:42 彼らが、あなたの大いなる御名と力強い御手と伸ばされた御腕につけて聞き、やって来てこの宮に向かって祈るなら、
 8:43 あなたご自身が、あなたの御座が据えられた場所である天でこれを聞き、その異国人があなたに向かって願うことをすべて、かなえてください。そうすれば、地上のあらゆる民が御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れるようになり、私が建てたこの宮で御名が呼び求められなければならないことを知るでしょう。
 8:44 あなたの民が敵との戦いのために出て行くとき、遣わされる道で、あなたがお選びになった都、私が御名のために建てた宮に向かって【主】に祈るなら、
 8:45 天で彼らの祈りと願いを聞いて、彼らの言い分を聞き入れてやってください。
 8:46 罪に陥らない人は一人もいません。ですから、彼らがあなたの前に罪ある者となったために、あなたが怒って彼らを敵に渡し、彼らが、遠くであれ近くであれ敵国に捕虜として捕らわれて行き、
 8:47 捕らわれて行った地で我に返り、その捕囚の地であなたに立ち返ってあわれみを乞い、『私たちは罪ある者です。不義をなし、悪を行いました』と言い、
 8:48 捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都、私

が御名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、
 8:49 あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて、
 8:50 あなたの前に罪ある者となったあなたの民を救し、あなたに背いた、彼らのすべての背きを救し、彼らを捕らえて行った者たちの前で彼らをあわれみ、その者たちがあなたの民をあわれむようにしてください。
 8:51 彼らはあなたの民であり、あなたがエジプトから、鉄の炉の中から導き出された、ご自分のゆずりの民だからです。
 8:52 どうか、あなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに御目を開き、彼らがあなたを呼び求めるとき、いつもその願いを聞き入れてください。
 8:53 あなたが彼らを地上のあらゆる民から選り分けて、ご自分のものとされたのですから。【神】、主よ。あなたが私たちの先祖をエジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモーセを通してお告げになったとおりです。」

さらにソロモンは、外国人すなわち異教徒のためにも祈りました。それは「すべての民が御名を知り…(神を)恐れるようになるためです。このように内側を強固にしていたくためには、外の人々の祝福と救いをも願うのが、主のみこころです。教会の外、家庭の外の人々を救いのために愛しましょう。
 また民が罪を犯して「敵国に捕虜として捕らわれていった場合」までも想定して、主に救しを願っています。主のおられるところには、あらゆる願いが可能ですが、それは主が絶対的な主権者であられるからです。それゆえ主に従うことが、前提です。そしてまた従いきれない場合も、あわれ

みを願ってよいのです。主と生きた交わりをしていきましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



23日 火曜

列王 I



8:54 こうしてソロモンは、この祈りと願いをことごとく【主】にささげ終えた。彼は、それまでひざまずいて、天に向かって両手を伸べ広げていた【主】の祭壇の前から立ち上がり、

8:55 まっすぐに立って、イスラエルの全会衆を大声で祝福して言った。

8:56 「【主】がほめたたえられますように。主は約束どおり、ご自分の民イスラエルに安住の地を与えてくださいました。しもベモーセを通してお告げになった良い約束はみな、一つも、地に落ちることはありませんでした。

8:57 私たちの神、【主】が、私たちの先祖とともにいてくださったように、私たちとともにいて、私たちを見放さず、私たちをお見捨てになることはありませんように。

8:58 私たちの心を主に傾けさせ、私たちが主のすべての道に歩み、私たちの先祖にお命じになった命令と掟と定めを守らせてくださいますように。

8:59 私が【主】の御前で願ったこれらのことばが、昼も夜も、私たちの神、【主】のみそば近くにあって、日常のことにおいても、しもべの訴えや、御民イスラエルの訴えを正しくかなえてくださいますように。

8:60 こうして、ついに地上のあらゆる民が、【主】こそ神であり、ほかに神はいないことを知るに至りますように。

8:61 あなたがたは、今日のように、私たちの神、【主】と心をつにし、主の掟に歩み、主の命令を守らなければならないのです。」

8:62 それから、王と、一緒にいたすべてのイスラエル人は、【主】の前にいけにえを献

た。

8:63 ソロモンは【主】へのいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万匹の交わりのいけにえを献げた。こうして、王とすべてのイスラエルの人々は【主】の宮を奉献した。

8:64 その日、王は【主】の宮の前庭の中央部を聖別し、そこで全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を献げた。【主】の前にあった青銅の祭壇は、全焼のささげ物と、穀物のささげ物と、交わりのいけにえの脂肪を受け入れるには小さすぎたからである。

8:65 ソロモンはこのとき、ともにいた全イスラエル、すなわち、レボ・ハマテからエジプト川に至るまでの大会衆と一緒に、七日と七日の十四日間、私たちの神、【主】の前で祭りをを行った。

8:66 八日目に王は民を帰らせた。民は王に祝福のことばを述べ、【主】がそのしもべダビデと、その民イスラエルに下さったすべての恵みを喜び、心満たされて、彼らの天幕に帰って行った。

「ひざまずいて」「立ちあがり」とは礼拝の真剣な姿です。私たちもこのように、精一杯ささげる礼拝をしたいものです。

主への祈りはまず、「良い約束は一つもたがわなかった。」という、過去の恵から来る信頼によって始められています。主の恵を忘れずに、信仰を強められましょう。

また主への願いは、「すべての国々の民が、主こそ神であり、ほかに神はないことを知るようになるため」という目的のためです。主の恵をたくさんいただき、主の証人となりましょう。

ソロモンの信仰と指示によって、「牛二万二千頭と羊十二万頭」という、膨大な数のささげものが主にささげられました。これらは罪の赦しなど

大切なものです。神を信じない人にとっては、無駄な浪費でしょうが、しかしそれは見えないお方を第一とするという不変の価値観によるものです。このように「聖なる浪費」を、私たちは重要視する必要があります。それがなくなると、見えるものばかりを追い求めるという、表面的で人間中心の限界から出ることができなくなってしまいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 24日 水曜

列王 I



- 9:1 ソロモンが、【主】の宮と王宮、および、ソロモンが造りたいと望んでいたすべてのものを完成させたとき、
- 9:2 【主】は、かつてギブオンで現れたときのように、ソロモンに再び現れた。
- 9:3 【主】は彼に言われた。「あなたがわたしの前で願った祈りと願いをわたしは聞いた。わたしは、あなたがわたしの名をとこしえに置くために建てたこの宮を聖別した。わたしの目と心は、いつもそこにある。
- 9:4 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心と正直さをもってわたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、
- 9:5 わたしが、あなたの父ダビデに『あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』と約束したとおり、あなたの王国の王座をイスラエルの上にとこしえに立たせよう。
- 9:6 もし、あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしに背を向けて離れ、あなたがたの前に置いたわたしの命令とわたしの掟を守らずに、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、
- 9:7 わたしは彼らに与えた地の面からイスラエルを断ち切り、わたしがわたしの名のために聖別した宮をわたしの前から投げ捨てる。イスラエルは、すべての民の間で物笑いの種となり、嘲りの的となる。
- 9:8 この宮は廢墟となり、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れてささやき、『何のた

めに、【主】はこの地とこの宮に、このよ
うな仕打ちをされたのだろう』と言う。
9:9 人々は、『彼らは、エジプトの地から自
分たちの先祖を導き出した彼らの神、
【主】を捨ててほかの神々に頼り、それを
拝み、それに仕えた。そのため【主】はこ
のすべてのわざわいを彼らに下されたの
だ』と言う。」

主がソロモンに与えた、これらの警告は現実的なものでした。そのごソロモンは、政略結婚などによって多くのそばめを持つようになり、そこから異教と偶像がイスラエルに入り込んでしまったのです。まさに「ほかの神々に仕え」ということが起きたのです。

ですから後の王たちも、程度の違いこそあれ、ここにあるわざわいを受けなければならず、最後にはイスラエルは滅ぼされてしまったのです。

このことはさまに私たちの人生にも起こり得ることです。神の恵によって幸いを歩みながら、神をないがしろにして、神いがのものを主としてしまう生き方です。そうならないように、この主からの戒めを心に刻みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 木曜

列王 I



9:10 ソロモンが【主】の宮と王宮との二つの家を二十年かけて建て終えたとき、
9:11 ツロの王ヒラムが、ソロモンの要請に応じて、杉の木材、もみの木材、および金を用立てたので、ソロモン王はガリラヤ地方の二十の町をヒラムに与えた。
9:12 ヒラムはツロからやって来て、ソロモンが彼に与えた町々を見たが、彼はそれらが気に入らなかった。
9:13 彼は、「兄弟よ。あなたが私に下さったこの町々は、いったい何ですか」と言った。そのため、これらの町々はカブルの地と呼ばれ、今日に至っている。
9:14 ヒラムは王に金百二十タラントを贈っていた。
9:15 ソロモン王は役務者を徴用して次のような事業をした。彼は【主】の宮と自分の宮殿、ミロとエルサレムの城壁、ハツォルとメギドとゲゼルを築き直した。
9:16 かつてエジプトの王ファラオは、上って来てゲゼルを攻め取り、これを火で焼き、この町に住んでいたカナン人を殺して、ソロモンの妻である自分の娘に結婚の贈り物としてこの町を与えた。
9:17 ソロモンはこのゲゼルを築き直したのである。また、下ベテ・ホロン、
9:18 パアラテ、この地の荒野にあるタデモル、
9:19 ソロモンの所有するすべての倉庫の町々、戦車のための町々、騎兵のための町々、またソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の全領地に建てたいと切に願っていたものを建てた。
9:20 イスラエル人ではない、アモリ人、ヒツ

タイト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の生き残りの民すべて、
9:21 すなわち、この地に残されていた人々、イスラエル人が聖絶できなかつた人々の子孫を、ソロモンは強制労働に徴用した。今日に至るまで、そうである。
9:22 しかし、ソロモンはイスラエル人を奴隷にはしなかつた。彼らは戦士であり、彼の家来であり、隊長であり、補佐官であり、戦軍隊や騎兵隊の長だったからである。
9:23 ソロモンには工事の監督をする長が五百五十人いて、工事に携わる民を指揮していた。
9:24 ファラオの娘が、ダビデの町から、ソロモンが彼女のために建てた家の上って来たとき、ソロモンはミロを建てた。
9:25 ソロモンは、【主】のために築いた祭壇の上に、一年に三度、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ、それらとともに【主】の前で香をたいた。彼は神殿を完成させた。
9:26 また、ソロモン王は、エドムの地の葦の海の岸辺にあるエイラトに近いエツヨン・ゲベルに船団を設けた。
9:27 ヒラムはこの船団に、自分のしもべで海に詳しい水夫たちを、ソロモンのしもべたちと一緒に送り込んだ。
9:28 彼らはオフィルへ行き、そこから四百二十タラントの金を取って、ソロモン王のもとに運んだ。

ソロモンはこの直前に、神様から「あなたがたとあなたがたの子孫が、わたしにそむいて従わず、あなたがたに授けたわたしの命令とわたしのおきてを守らず、行ってほかの神々に仕え、これを

拝むなら、わたしが彼らに与えた地の面から、イスラエルを断ち…」という警告を与えられていました。

しかし彼がすぐに行ったことは、国を政治的に建てることであって、信仰的に建てることではありませんでした。すばらしい知恵と手腕を持ったソロモンでありましたが、それゆえに自分の力に頼ってしまい、一番大切なものを後回しにしてしまったのです。主への純粋な信仰を後回しにしていないう、自分の思いと行動を考えて見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 金曜

列王 I

10:1 ときに、シェバの女王は、【主】の御名によるソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試そうとしてやって来た。

10:2 彼女は非常に大勢の従者を率い、バルサム油と非常に多くの金および宝石をらくだに載せて、エルサレムにやって来た。彼女はソロモンのところに来ると、心にあることをすべて彼に問いかけた。

10:3 ソロモンは、彼女のすべての問いに答えた。王が分からなくて、彼女に答えられなかったことは何一つなかった。

10:4 シェバの女王は、ソロモンのすべての知恵と、彼が建てた宮殿と、

10:5 その食卓の料理、列席の家来たち、給仕たちの態度とその服装、献酌官たち、そして彼が【主】の宮で献げた全焼のささげ物を見て、息も止まるばかりであった。

10:6 彼女は王に言った。「私が国であなたの事績とあなたの知恵について聞き及んでいたことは、本当でした。

10:7 私は自分で来て、自分の目で見るまでは、そのことを信じなかったのですが、なんと、私にはその半分も知らされていなかったのです。あなたの知恵と繁栄は、私が聞いていたうわさより、はるかにまさっています。

10:8 なんと幸せなことでしょう。あなたにつく人たちは。なんと幸せなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことができる、このあなたの家来たちは。

10:9 あなたの神、【主】がほめたたえられますように。主はあなたを喜び、イスラエルの王座にあなたを就かせられました。【主】はイスラエルをとしえに愛しておられるので、



あなたを王とし、公正と正義を行わせるのです。」

10:10 彼女は百二十タラントの金と、非常に多くのバルサム油と宝石を王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったほど多くのバルサム油は、二度と入って来なかった。

10:11 また、オフィルから金を積んで来たヒラムの船団は、非常に多くの白檀の木材と宝石を、オフィルから運んで来た。

10:12 王はこの白檀の木材で、【主】の宮と王宮のための柱を作り、歌い手たちのための堅琴と琴を作った。今日まで、このような白檀の木材が入って来たことはなく、見られたこともなかった。

10:13 ソロモン王は、シェバの女王が求めたものは何でもその望みのままに与えた。さらに、ソロモン王の豊かさにふさわしいものも彼女に与えた。彼女は家来たちを連れて、自分の国へ帰って行った。

この女王に対してソロモンが対応した様子について、ある註解では批判的です。ソロモンが主からの知恵を自分の名声のために利用しているというのです。もちろん誰もがそのような点を自戒することは必要です。本当に主の栄光につながっているのだろうかかと謙遜に考えるべきです。

ただ、女王は「あなたの神、主はほむべきかな。」と発言して、主の栄光が表されています。イエス様もシェバの女王のことに言及しておられ、「ここにソロモンよりもすぐれたものがあります。」と、シェバの女王を求道者のひな型としておられます。

であるならば、私たちは求道者に神の恵みを見せて、その人に証するソロモンの姿に教えられることができます。主からの恵の豊かさを大いに見せて、またそれを分け与えて、主のすばらしさを

体感できるようにしてあげましょう。そして最後には主が崇められることを目的としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いのなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 土曜

列王 I

10:14 一年間にソロモンのところに入って来た金の重さは、金の目方で六百六十六タラントであった。

10:15 このほかに、隊商から得たもの、貿易商人の商いで得たもの、アラビアのすべての王たち、およびその地の総督たちからのものがあった。

10:16 ソロモン王は、延べ金で大盾二百を作り、その大盾一つに六百シケルの金を使った。

10:17 また延べ金で盾三百を作り、その盾一つに三ミナの金を使った。王はそれらを「レバノンの森の宮殿」に置いた。

10:18 王は大きな象牙の王座を作り、これに純粋な金をかぶせた。

10:19 王座には六つの段があり、その王座の背の上部は丸かった。座席の両側に肘掛けがあり、その肘掛けのわきには二頭の雄獅子が立っていた。

10:20 また、十二頭の雄獅子が六つの段の両側に立っていた。このような物は、どこの王国でも作られたことがなかった。

10:21 ソロモン王が飲み物に用いる器はすべて金であった。「レバノンの森の宮殿」にあった器もすべて純金で、銀の物はなかった。銀は、ソロモンの時代には価値あるものとは見なされていなかった。

10:22 王が海にヒラムの船団のほかタルシシュの船団を持っていて、三年に一度、タルシシュの船団が金、銀、象牙、猿、孔雀を運んで来たからである。

10:23 ソロモン王は、富と知恵において、地上のどの王よりもまさっていた。



10:24 全世界は、神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとして、彼に謁見を求めた。

10:25 彼らはそれぞれ贈り物として、銀の器、金の器、衣服、武器、バルサム油、馬、ろばなどを、毎年携えて来た。

10:26 ソロモンは戦車と騎兵を集め、戦車千四百台と騎兵一万二千人を所有した。彼はこれらを戦車の町々、およびエルサレムの王のもとに配置した。

10:27 王はエルサレムで銀を石のように用い、杉の木をシェフェラのいちじく桑の木のように大量に用いた。

10:28 ソロモンが所有していた馬は、エジプトとクエから輸入されたもので、王の商人たちが、代価を払ってクエから手に入れたものであった。

10:29 戦車はエジプトから銀六百、馬は銀百五十で買い上げられて、輸入された。同様に、ヒッタイト人のすべての王やアラムの王たちにも、王の商人たちの仲買で輸出された。

人は栄誉や富や成功で喜びにあるときにこそ、気をつけなければなりません。ソロモンはまさにその絶頂にありましたが、彼はそれゆえに神様に背くことをするに至りました。申命記において神様は、王たるものは妻と馬と富を多く持ちすぎてはならないと命じられたにも関わらず、彼はそれに心を奪われてしまったのです。

彼の知恵は主から与えられたのですし、王国を守るためには経済力や戦車の馬も必要でしたが、そのようなものは主に背くことの言い逃れにはなりません。主と歩んで来たことの末路が、逆に主から離れるようなことにはなっていないか、考える必要があります。むしろ過去を捨ててでも、今生きておられる主ご自身に従うとき、過去の恵が

何倍にも大きく揺るぎないものとなるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





11:1 ソロモン王は、ファラオの娘のほかにも多くの異国人の女、すなわちモアブ人の女、アンモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヒッタイト人の女を愛した。

11:2 この女たちは、【主】がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中に入ってはならない。彼らをあなたがたの中に入れてもいいけない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせる」と言われた、その国々の者であった。しかし、ソロモンは彼女たちを愛して離れなかった。

11:3 彼らには、七百人の王妃としての妻と、三百人の側女がいた。その妻たちが彼の心を転じた。

11:4 ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々の方へ向けたので、彼の心は父ダビデの心と違って、彼の神、

【主】と一つにはなっていなかった。

11:5 ソロモンは、シドン人の女神アシュタロテと、アンモン人の、あの忌むべき神ミルコムに従った。

11:6 こうしてソロモンは、【主】の目に悪であることを行い、父ダビデのように【主】に従い通さなかった。

11:7 当時ソロモンは、モアブの忌むべきケモシュのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。アンモン人の、忌むべきモレクのためにも、そうした。

11:8 彼は異国人であるすべての妻のためにも同じようにしたので、彼女たちは自分の神々に香をたき、いけにえを献げた。

11:9 【主】はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、【主】から

離れたからである。主が二度も彼に現れ、
11:10 このことについて、ほかの神々に従って行ってはならないと命じておられたのに、彼が【主】の命令を守らなかったのである。
11:11 そのため、【主】はソロモンに言われた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約と掟を守らなかったで、わたしは王国をあなたから引き裂いて、あなたの家来に与える。

11:12 しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたが生きている間はそうしない。あなたの子の手から、それを引き裂く。

11:13 ただし、王国のすべてを引き裂くのではなく、わたしのしもべダビデと、わたしを選んだエルサレムのために、一つの部族だけをあなたの子に与える。」

強国に囲まれたイスラエルでしたから、世の常識から考えるなら同盟関係は必要でした。しかしそのために軍備が必要になり、また戦いに巻き込まれ多くが滅んでいったのが当時の国々でした。

ですから神様は、同盟に頼るよりも神ご自身に頼るようにと、昔から何度もイスラエルに命じられました。またそのように従うときはイスラエルに恵を施したのです。

しかしソロモンは同盟のために異教の国々から妃を受け入れました。それが異教と偶像の源となりました。ソロモンの心はさらに主のみこころから離れて、自分の快樂のために王妃やそばめを増やしていったのです。

そのような不従順はさらなる不従順を生み出し、ソロモンは神々にいけにえまでささげたのです。彼の造った神殿で主へのいけにえもささげたのでしょうが、彼は偶像の神々にも仕えたのでした。

クリスチャンもまた同じで、神に仕えつつ神以外のものを主のようにして仕えてしまうということがあり得るのです。そのような生き方で、主から与えられた王国のような大切な人生が引き裂か

れないようにしましょう。今ある恵をくださったのが誰であるかを忘れないようにして、感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

